

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400838		
法人名	株式会社恵み野介護サービス		
事業所名	グループホーム フレンドリィ		
所在地	札幌市西区八軒10条東3丁目1-20		
自己評価作成日	令和3年5月25日	評価結果市町村受理日	令和3年8月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0190400838-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①アットホームな雰囲気で自分の家に居るような生活して頂く様に個々の思いを大切に職員全員が、情報を共有し話し合い関わりを持つ様にしており会話も大切に笑って職員とお話をする環境にしています。
- ②春から秋にかけて月に1度の外出レクを行っており、毎年個々に会話の中から食べたい物、行きたい所を聞きそれに添うように計画し実行しています。
- ③例年の行事にはご家族様を招いての、BBQ 敬老会 クリスマス会等を行いますが今年度はご家族の参加が無く寂しい会を社長を創め職員が余興等を例年より力を入れて皆様に喜んで頂く様にしています。
- ④例年火災訓練年2回他に、風水害訓練も年1回行っており町内会の方々にも参加して頂いております、又 新たに福井に開設した高齢者住宅に風水害の時は早めの避難をすることが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR八軒駅から徒歩8分ほどの場所にある2階建て1ユニットのグループホームである。閑静な住宅地だが、幹線道路やスーパーが近く、利便性が高い。建物は2階建てで1階に共用空間と1居室、2階に8居室と浴室などがあり、エレベーターが設置されている。地域との関わりを重視し、感染症流行により交流が難しくなる中、利用者と一緒に手作りのマスクを作り、地域に配る活動をしている。運営推進会議は現在、書面での開催となっているが、感染症流行前は参加メンバー、会議テーマともに充実した会議が行われていた。身体拘束をしないケアの面では、身体拘束を行わず、内容の充実した身体拘束適正化委員会や勉強会が開催されている。家族からの意見や、職員が気付いた家族の意向をくみ取り、職員間で共有する仕組みができています。また、事業所だよりにより利用者の様子を詳しく載せ、家族に喜ばれている。ケアマネジメントの面では、センター方式のB-3シートにより趣味や嗜好を把握する取り組みを充実させている。日々の記録は介護目標を意識して記録し、計画の見直しに活かしている。外出が難しくなる中、日々の散歩を頻繁に行い、少人数ずつでの外出も行って、できる範囲で楽しめるようにしている。温かな支援体制のもと、安心して過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、基本理念を見やすい場所に掲示し個人の社員証にも明記しておりいつでも確認が出来る様になっている。	法人理念とケア理念があり、法人理念の中に地域との関わりを重視する文言を入れている。理念を居間や2階廊下、会議室に掲示し、職員は名札と一緒に理念を携帯している。毎月の会議で内容を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は交流が出来なかったが、その中でも町内会の廃品回収や児童館や幼稚園へのマスクを配った。	感染症流行前は、町内会館で行われる音楽会に利用者と出かけ住民や子供たちと交流し、事業所の敬老会やクリスマス会にも住民による楽器演奏などの披露を受けていた。最近は散歩する際に住民と挨拶を交わし庭の花を見せてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、避難訓練に参加して下さる町内の方や運営推進会議に参加して下さる方に認知症の方の行動や対応のしかたをお話をさせて頂いている。AEDの設置を近所の方々に知って頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進委員会を開いています。今年度は書面会議を行い構成員の皆様へ職員との会議内容を書面でお知らせして後日感想やご意見を頂いております。ご家族にはホーム便りと一緒に送付しています。	感染症流行により2か月ごとの書面開催となっている。通常開催時は地域包括支援センター、町内会長、家族等の参加を得て、外部評価、感染症対策、身体拘束、看取りなどをテーマに話し合っている。書面開催の場合も家族から意見を頂いている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事等は札幌市の事業指導係りに直接電話などで質問しています。又保護課に於いてはなるべく区役所に訪問して対応しております。	不明な点があれば市役所に電話で相談したり、提出書類を届けに訪問している。市役所の依頼により、新型コロナウイルスのスクリーニング検査に事業所として協力した。市や区の管理者会議も、再開後は参加する意向である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしていません。午後9時～午前6時までの間は施錠を行っています定期的に「身体拘束適正化委員会」を行っており、職員にも周知して内部研修もしている。	身体拘束を行っておらず、身体拘束適正化委員会を年4回開催し、同時に勉強会を行っている。勉強会に参加できない職員にも資料に沿って内容を説明している。玄関は日中施錠せず、利用者の外出希望があれば、外に同行したり隣の会議室に行つて談話をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に行っている委員会の内容を報告、研修をしています。また毎月のミーティング時にも常に話合っており グレーゾーンについての話も常にしている。		

グループホーム フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はいらっしゃらないが今後必要とされる方がいらした場合は関係機関と協力して対応したい、職員の研修も行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1度見学に来て頂きホームの運営方針等を説明させて頂いてからのご本人との面談後入居ととなります契約時には改めて契約内容、重要事項の説明を行い質問等を受け御家族様のご理解ご納得を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの、ご意見要望の用紙と箱を用意している、コロナで来訪される事がほとんど無かった為、電話での苦情や来所された時にお聞きして職員と話し合い解決に向ける様にしている。	家族には主に電話で様子を伝え、その際に意見や要望を聞き「ご家族からの声」というノートで共有している。家族の思いも取り取って記している。写真や職員の手書きのコメントも載せた利用者ごとのお便りを定期的に作成し、送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議や個別での意見提案の場は設けている会議の中で職員の意見の反映は出来ている、その他でも、管理者と面談をいつでもしてもらえる。	月1回の会議で職員が活発に意見交換している。定期的な個人面談はないが、管理者が職員の話をもいつでも個別に聞いている。室内装飾、防災、感染症対策、レクリエーションなどの業務を職員が分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が代表に話してくれているが、代表と職員との関わりが少なく、コミュニケーション不足を感じる時があるが、代表は一人一人の事を考えて昇給に繋げてくれていると思う。コロナの状況で職員の日々の体調管理や感染対策等を協力し合って予防している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行っているが、コロナの為外部研修に参加出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区の管理者連絡会議や連絡協議会などがコロナで集まりが、されていない為以前のような活動が出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に管理者、ケアマネはご家族、ご本人から要望を聞いて初回時のケアプランに反映しています。職員は入所後に関わりの中で心配な事や不安な事等を会話の中から聞き出し安心して頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所準備段階から、今までの困っている事や不安などをお聞きして入所する事で安心して頂ける様に信頼関係を作る様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の見学時の時からのお話や入所されてからのお話を職員との会議時に話し合いサービスに反映する様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合わせた対応、会話の中からの思い等を大切に本人の希望に合わせた対応を職員も一緒に行う事を大切にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、面会の制限で会えない状況の為、定期的にホーム便りを送り様子を伝えたり電話等ご家族、ご本人がコンタクトの取れる様にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、家族との外出が出来ない状況の為今年度は来所される事も、出かける事も無かったが例年は墓参り、正月など出かける方もいます。	以前は友人の来訪があったが、現在は来訪を受けていない。友人等と手紙のやり取りをする利用者があり、事業所で手紙用紙のセットを用意し作成を手伝っている。馴染みのコンビニエンスストアにコーヒーを買いに行ったり、寿司の好きな利用者と寿司屋に行くことがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いにコミュニケーションがとれる方同士を同じテーブルにして、ゲームやレクで交流をもつて頂き、自発的に交流をする事が難しい方は職員が仲介しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方との交流は少ないですが退去後亡くなられた方のご家族様から亡くなられたことのご報告やご挨拶など数人の利用者様の家族様からありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人に話を聞いて好きなことややりたい事の把握に努め、職員間で検討しお一人お一人に合ったケアを実行出来るように努めている。	半行程の利用者が言葉で思いや意向を把握でき、難しい場合も表情などから把握している。趣味や嗜好をセンター方式のB-3シートに記している。生活歴の情報は書式や記載方法が統一されていない。	利用者の生活歴に関する情報について、書式を統一し、得られた情報から順次記載し共有することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族にセンター方式のB-3シートを渡してわかる所を書いて頂き入所後は担当職員がご本人との会話の中から紐解き記入しサービスに反映する様にしている。半年に1度の見直しも行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック(バイタル体温測定、水分量、排泄、入浴、食事、)更衣時の身体チェックなど様子が違う時等入居者様を観取し記録して送りやミーティングの時に話し合う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医療、介護の意見をお聞きして毎月の会議でカンファレンスを行い担当職員がアセスメント、モニタリングシートを作り全職員で話し合い介護計画を見直しています。	介護計画を3~6か月ごとに更新している。モニタリング表をもとに職員が話し合っって評価を行い、次の計画を作成している。介護記録の作成にあたっては、右側に該当する介護目標の番号を記載しながら記録し、見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には日々の様子やご本人の発した言葉や行動を克明に記録し介護計画に沿ったサービスを行ったらケアプランの番号を記入しているいつもと変わった事があった時は職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の状況に応じて、職員、医療と話合った事は家族に提案し、ご家族からの希望に出来るだけ対応する様にしています。コロナ禍で面会を控えて頂いていますが電話やコロナが落ち着いた時期に15分程度の面会を行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携でホームへの協力を頂いている。今は出来ないが町内の方々や消防、民生委員などの協力が出来ている職員も町内の訓練などにも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回の在宅診療の往診医は些細な事でも相談にのってくれ、家族様にも親切丁寧に市説明してくれる。緊急の時も関連病院への搬送の対応をさせて頂いています。	利用者全員が協力医療機関による月1回の往診を受けている。内科以外を外来受診の際は事業所や家族が同行している。受診内容を個人ごとの診療記録に記載し共有している。	

グループホーム フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度グループ会社の訪問看護が来て健康チェックをしています、何か特変があった場合は訪問看護部の管理者からアドバイスが有り、往診医へ相談する。往診の看護師は電話での夜間の対応、相談に親切に対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医に相談し連携病院に搬送して受け入れしてもらえてます。今年はコロナで入院をしても、面会がままなら無い状態の為病院へ行く事が出来なかったが状態を電話で確認し、退院に向けて受け入れの準備をする様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族にお伝えしています。往診医からの話があったら、ご家族と往診医、管理者で何度も話し合いを重ねご家族が納得して頂き職員とも研修、話し合いを何度も行い看取りへ繋げています。	利用開始時に「重度化対応に関する指針」を説明し、同意書を得ている。ここ数年で2名の看取りを経験しており、ミーティングで看取りの勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修や緊急時のマニュアルを作成し施設内に各階掲示し全職員に配布して周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2階の火災訓練、1回の風水害の避難訓練を行っている。今年はコロナで近所のお手伝いは無かったが毎年参加して頂いています。	年4回、昼夜を想定した避難訓練を行っており、感染症流行前は消防署の協力や住民の参加を得ていた。事業所にAEDを設置して定期的に救急救命訓練を行っている。水や食料等の備蓄品も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた対応と、名前等も、なれなれしくならない様に言葉使いも注意しています。	名前は「さん」付けで呼ぶように統一している。申し送りでは個人名を出さないようにしプライバシーを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中での会話で希望や要望をお聞きし個々の出来る出来ないを職員間でいくつかのプランを出したものを選んで頂く様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の中で自分の家に居るように、個々がやりたいことを選んでやって頂き、歩きたい方は施設内を歩き、TVを見たい方は自由にされているのを見守り支援し、職員間でも都度検討しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週2～3回の入浴と着替え、その方によっては自分で朝に服を選んだり外出の時は、日常着では無くおしゃれに気遣いし出かける様に支援します。		

グループホーム フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いを把握して献立を伝えたり食べたい物を聞いて提供しています。特に誕生日には好物を作っています。食事の準備や片付けも職員と一緒にします。	献立は職員が作成している。利用者が食べたいものを取り入れ、希望により臨機応変に献立も変え対応している。朝食は利用者が好みのおにぎりを作ることも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて食事の形態や量、塩分制限に対応しトロミや刻みで提供し、この方の状況に応じて水分量も提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食以後に、口腔ケアをして頂きます。職員は見守りし援助の必要な人には支援をしています、訪問歯科医の治療をして頂いてます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に個々の水分量と排泄記録を記入し、個々の排泄に職員が対応し、トイレへ誘導してなるべく失禁の無いように心掛けている。	約半数の利用者が自立している。全員分の水分・排泄チェック表を毎日記録し、個々の排泄ペースを把握し、さりげなくトイレへ誘導するなどの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の送りで排便確認を行い、自力排便が難しい方には訪問医と相談し下剤の調整をしています。3日以上になると訪問看護の時間にお腹を見てもらい浣腸をしてもらう。毎朝の牛乳、繊維質食材の提供等。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2～3回個々の状況やニーズに合わせて対応しています。	週4回入浴日があり、週2回は入浴できている。一人ひとりの入浴温度や入浴時間を把握し、ゆっくりとリラックスできる時間を確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良の時等は自室にて休んで頂きます。夜間は外の明かりが居室に入らない様に遮光カーテンを使用したり、その方のペースに合わせて入床まで過ごして頂いたりとしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬を担当職員がセットしており、担当職員はその方の処方や薬の内容、薬の変更を把握するようにし全職員が毎日の服薬を行い、変更時効も連絡ノートで把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	内部レクでは競技形式で1～3位までには景品、賞状をお渡しする事で楽しみにしてくれています外出レクは行きたい所や食べたい物をお聞きして意向に沿う様にした外出をする様にしている。		

グループホーム フレンドリイ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬は外出はしていないが春から秋にかけては個々の要望を聞き外出レクで海や山に出かけています。おやつを買いに行ったりとしています。	天候が良い時は利用者の希望により、近所の散歩を行い外気に触れる機会を確保している。毎月外出レクを予定している。感染予防のため、車を利用し少人数ずつで、季節の花や海を見に行く予定を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金の管理が出来る方はいない為お金はホームで管理をしています。日用品の購入やレクの時に使用しています。本人の希望する嗜好品の購入、医療費の支払いの支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナで面会が出来ない為ご家族にも電話での御連絡をお願いしています。家族からの手紙にはお返事を書けるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のリビングは一日3回の換気と、掃除を行いリビングの飾りは入居者様と職員が共同製作した物等を飾っています。	1階にある居間には大きな食卓テーブルの他、同じ1階にゆったりとすごせるソファも設置されている。居間の壁には、利用者と職員で作成した折り紙のアジサイが飾られ季節が感じられるよう工夫している。トイレ、浴室ともに手すりが設置され十分な広さも確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の状況や身体に合わせて席替えをしたり、固定ではなく、テレビを観る時ゲームをする時とその都度対応をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物や馴染みの物家族の写真などをご家族が用意されたものをお部屋に置いて元の生活を大切に空間作りをご家族と協力し支援をしています。	居室にはベッド、クローゼットが備え付けられ、鏡台やテレビを持ち込んだり、壁には家族の写真や手作りの作品や塗り絵を飾り、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに、ひらがなでの表札を掲示してご本人が自分の居室とわかる様にしています。また転倒リスクの高い方にはセンサーマットで迅速に居室に駆けつける様にしています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム フレンドリィ

作成日：令和 3年 7月 15日

市町村受理日：令和 3年 8月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	○思いや意思の把握 一人一人の思い等に職員が、聞き取りをしてセンター方式の(B-3)の活用を行っていた、本人やご家族に思いや希望を聞き対応していたが、ご本人の生きてきた背景から読み取れる物を知る事も大切である。	○ 些細な会話の中からも、その方の生きてきた歴史や 思いを聞き出し職員全員で共有する事によって、その方らしく生活出来るヒントを見つけて支援をしていく。	○センター方式のB-2の活用で、個々の生活歴を職員全体で把握し、その方らしく生活できるように支援していきます。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。